

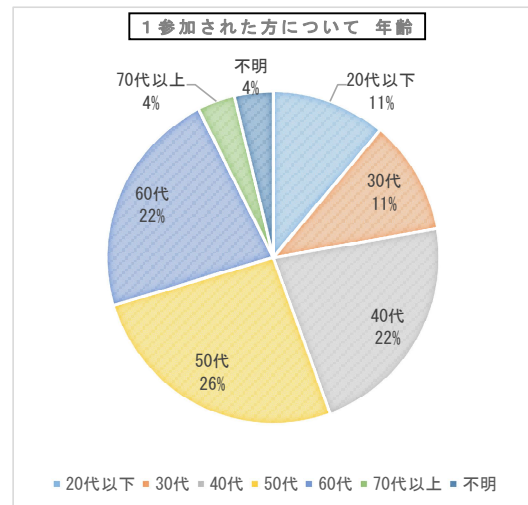
【アンケート結果】ちょっと聞いてみる？こちらの森と川のこと～流域の明日のために～
 第一部（事例発表・基調講演）：令和8年2月20日（金）
 こうち男女共同参画センター「ソーレ」3階大会議室ほか

参加者：59名（その他スタッフ9名）

回答者：27名（回答率：45.8%（参加者数/回答数））

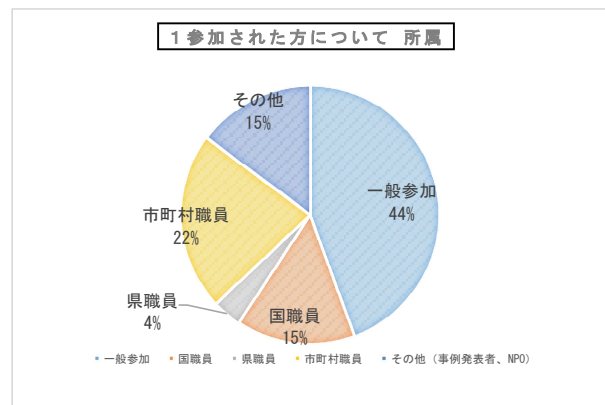
1 参加された方について

年齢		
分類	回答数	割合
20代以下	3	11.1%
30代	3	11.1%
40代	6	22.2%
50代	7	25.9%
60代	6	22.2%
70代以上	1	3.7%
不明	1	3.7%
合計	27	100.0%



住まい		
分類	回答数	割合
高知市	8	29.6%
いの町	3	11.1%
香南市	2	7.4%
四万十市	2	7.4%
香美市	1	3.7%
芸西村	1	3.7%
安田町	1	3.7%
越知町	1	3.7%
土佐町	1	3.7%
黒潮町	1	3.7%
県外（兵庫県、大阪府、滋賀県、埼玉県）	4	14.8%
不明	2	7.4%
合計	27	100.0%

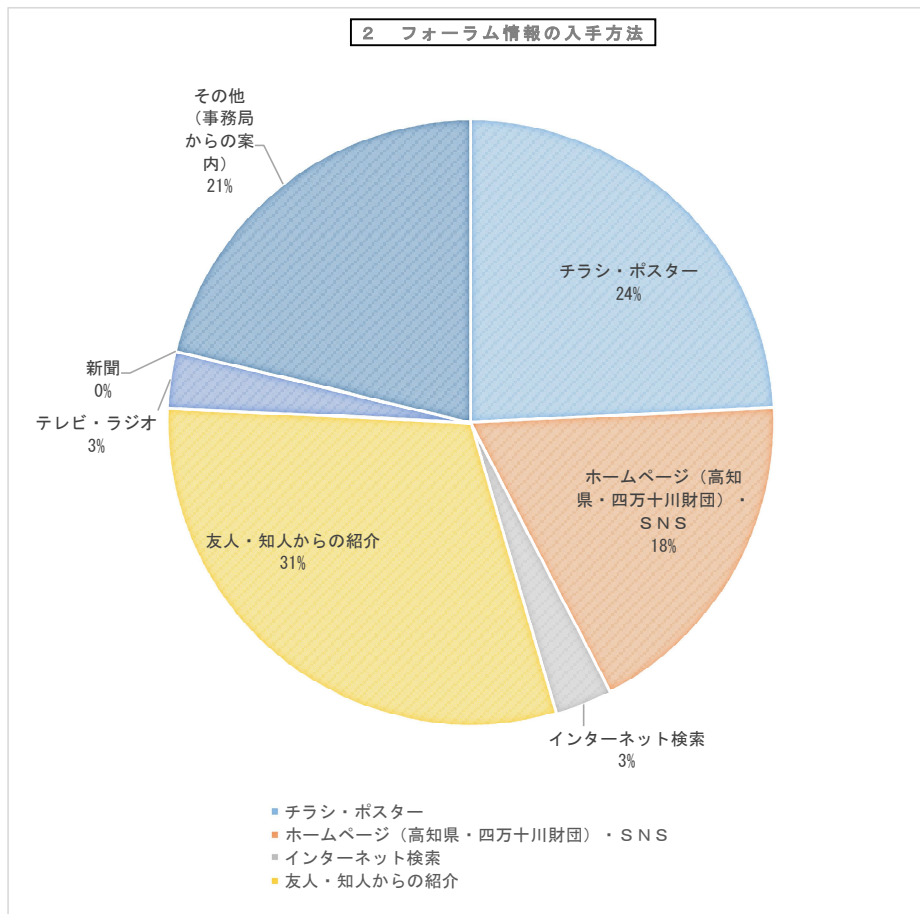
所属		
分類	回答数	割合
一般参加	12	44.4%
国職員	4	14.8%
県職員	1	3.7%
市町村職員	6	22.2%
その他（事例発表者、NPO）	4	14.8%
合計	27	100.0%



2 本日のフォーラムの開催をどこで知りましたか。

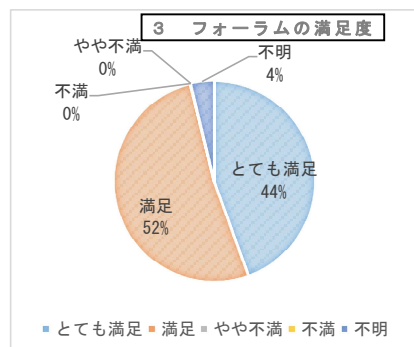
(複数回答可)

分類	回答数	割合
チラシ・ポスター	8	24.2%
ホームページ（高知県・四万十川財団）・SNS	6	18.2%
インターネット検索	1	3.0%
友人・知人からの紹介	10	30.3%
テレビ・ラジオ	1	3.0%
新聞	0	0.0%
その他（事務局からの案内）	7	21.2%
合計	33	100.0%



3本日のフォーラム第一部（基調講演、事例発表、ポスター展）に参加していかがでしたか。

分類	回答数	割合
とても満足	12	44.4%
満足	14	51.9%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
不明	1	3.7%
合計	27	100.0%

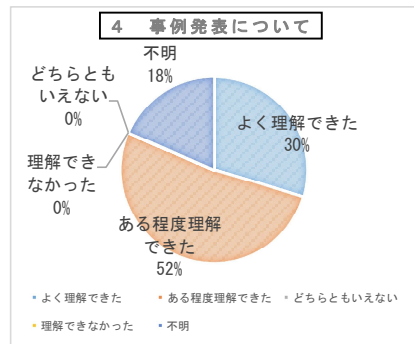


【自由記述】

- 高知県に沢山の活動団体や個人、組織があるのに、個別にバラバラ動いているので、情報発信力も弱く、全国における最新情報の共有が遅れていて、環境のトップランナーのはずが、正直いつのまにか後続ランナーになってしまっていると危惧していました。連携して動くことの必要性や可能性を伝えたとしても、「高知はまとまんきね」と言われる事が多く、頭を悩ませていました。今回は、各団体の事をお互いが知っただけではなく、鎌田先生の講演によって、共通の目標を持ち、課題を共有し、団結して連携することで、行政をも動かす大きな力になることを徳島の事例から学べたのも良かったと思います。一日目の講演は、全ての団体の方に聞いて欲しかったです。ただ、現状としては、各団体高齢化や人材不足で余裕がなく、自分達のことでは精一杯だったり、距離があるから時間的にも、資金的にも難しいなどの課題があります。その課題をどのようにして解決していくかを踏み込んで考える時間があれば、より繋がるのが現実的になるのかなと思いました。
- 様々な発表を聞いて勉強になりました。
- 講義の並びが良かった。川や森、生物に着目した後行政関係としての取り組みから地域団体の活動に流れていくシナリオがわかりやすかった。
- 内容がとても充実していました。
- 以前から興味がある団体や取り組みの話が出て良かった。
- 森や川に関わる団体さんが高知に沢山あることを今回初めて知ることができました。また、活動内容も知ることができ、学びになりました。
- 森と川を考えて活動している方の取組を知れたため。
- 時間がないためか、早口で分からないところがありました。が、大変興味深いお話でした。

4 事例発表1～3、基調講演を通して、森林や流域の環境への理解が深まりましたか。

分類	回答数	割合
よく理解できた	8	29.6%
ある程度理解できた	14	51.9%
どちらともいえない	0	0.0%
理解できなかった	0	0.0%
不明	5	18.5%
合計	27	100.0%



5 事例発表①～③について、理解が深まったことや感想を教えてください。【自由記述】

- 1 フィールドでの活動だけでなく、県の政策にももっと関心を持ち、現場の課題や情報を共有して、現実的な提案をすることが大事なこと。
- 現場で動ける人以外にも、助成金申請書の作成が出来る人や、それにアドバイス出来る大学の先生など、活動資金をきちんと確保するために、多様な能力を持っている人が必要だということ。
- 2 林業界には抵抗勢力があるので、大きな変化を起こすのは難しいが、許容できる小さな取組から進める方が現実的だということ。
- 3 他団体の良いところを褒め合うことの大事さ。競い合う事が目的でないと、順位が決められることで、評価の仕方に不満が出てくることがあるので、そこへの配慮が必要だということ。
- 滋賀県の取り組みは、生物多様性の保全でも活かそうと、大変興味深かったです。
- 基本的に自然をリスペクト、配慮した活動のロジックの組み立て。1番良かったのはこんなにも沢山の人が自然を尊重し守る意志があり行動していること。
- 琵琶湖での滋賀県の積極的な取り組みは、高知県でも実践して欲しい。
- 事例発表2について、保持林業という言葉を知りませんでした。研究結果や結果を踏まえた課題等について、分かりやすく紹介していただき、とても勉強になりました。
- 上下流連携のスキーム。
- 保持林業の可能性。
- 交流の場づくりの価値。
- 1は専門的についていけないところがあった。
- 2は山をつくる上で今後に希望が持てた。
- 3フォーラムによる交流の効果に驚いた。
- 事例発表3において、淡海の川づくりフォーラムでは、事例発表や講演とは違って、各団体の取組発表を行って他団体の取組を発表したり意見交換をするフォーラムのやり方があることを初めて知り、新たな発見に繋がりました。
- 2について、保持林業の考え方を初めて知ることができました。
- 3流域治水について、これだけ早くから取り組まれたこと、経験が大変勉強になりました。
- 1ゲットフローズによるシュミレーションは効果的だと思った。流域の清流保全を考えるうえで、リアルでは、検証できないことも、データ上では試せるので、各河川でも活用できないのかなと思いました。
- 2の事例発表が興味深かった。高知県でどのような運用ができるのか気になる。
- 滋賀県の取り組み、継続性のルールが参考になった。
- 2針葉樹林の再生？について。
- 事例発表1について、森林を自分ごとにするための取組をどうすればよいか理解が深まった。
- 広葉樹の重要性。
- 協力することの大切さ。
- 保持林業について聞いたことはあったが、全国で取組が進んでいることを知れてよかった。淡海の川づくりフォーラムについて初めて内容を知ることができて大変参考になった。
- 「当事者」山も川もそこに住み、命をもらう私達住民が当事者になれていない事。「他人事」のままいることのおそろしさを痛感しました。
- どの発表も強い熱意と示唆的な考えをいただきました。
- 保持林業をすすめる上でのマイクロハビタットの重要性に感心を持った。
- 保持林業に関心があり、参加しました。生物多様性という観点での林業について理解が深まりました。もっともっと広がるようになればいいですね！！市民参加型のモニタリングや保持林業の現場見学などあったら関心が高まるのではないのでしょうか。私は参加したい！！
- 歴史物語を語りつぐ事が大切。
- 川のことはなじみがあっても、森の方は初めて聞く内容が多く、興味深く聴く事ができた。

○質疑応答

Q1. 10本/haの木を残した場合、残された木の環境が変わり木が枯れることはないのか。

A1. 伐採後に樹木を残すと周辺環境が大きく変わり、樹木が枯死することがあります。保持林業の目的の一つは大径木の木材生産後の創出なので、枯れにくい樹種を選択することは大事だと考えられます。ただ、現在は樹種による枯れやすさは分かかっておらず、その解明は今後の課題となっております。一方で、残した樹木が枯れると、多様な生物にとって価値がある枯れ木が創出されることとなります。このため、樹木が枯れることにも保全上の意義があります。将来的には、大径木を育てることと枯れ木を生み出すことのバランスを考えながら、樹木を選択できればと思います。（回答：山浦悠一氏）

Q2. 河畔林の伐採について、樹木が茂り過ぎた所を順次伐採しているが、この場合も大径木を残すと生き物が残りやすいのか。

A2. そのように考えています。特に河畔林では、河川に入る広葉樹の落葉は水系生態系の食物網の重要なエネルギー源になります。また、大径木がやがて河川内に倒伏すると、河川内の微環境の多様性を高めることにつながります。このため、安全面などで支障がなければ、河畔林でも大径木が果たす役割は大きいと考えております。（回答：山浦悠一氏）

6 基調講演について、理解が深まったことや感想を教えてください。

【自由記述】

- 大変学びが多く、高知県にとって一番の課題ではないかと思うことへのヒントを沢山いただきました。森林環境税の用途についてや生物多様性こうち戦略2024案への意見書を出したことがあります。環境活動をしている知人に伝えたりしてはみたものの、意見書を出してくれる人はいませんでした。2024案は全部で3人11件だったそうで、高知県民の環境政策に関する関心の低さが伺えます。環境基本計画は、産業振興計画にも繋がる、より大事な政策だと思っているので、共同で意見書を作成して、連名で提出できないかと考えていたところなので、本当に参考になりました。締切まであとわずかなので、環境基本計画に関しては、徳島のような取り組みをするのは難しいですが、高知県にはネイチャーポジティブ経済移行戦略がありませんので、その策定に向けての提案書作成を徳島の例を参考に、高知県でどうしたら実現できるかを、真剣に考えています。県民性の違いや、地理的条件も異なるので、高知版の協働のプロセス検討が必要だと思っています。税金を活用してこのフォーラムを開催していただいたので、このチャンスを活かさないといけないなと思っています。
- 非常に実践的な取組をされていて感銘を受けました。
- これから私達が取り組んでいくプロセスが既にスライドとなっていました。対象が県全体の動きではないので規模は小さいですが内容や道筋はほぼ一緒だと思うので応用させていただき取り組んでいきたい。
- 市民協働で何かに取り組むことは重要であることを再確認しました。また、取組の過程を大切にしたいと感じました。
- 徳島生物多様性戦略の取組の詳細が伺えた。
- 「自然によりそう地域づくり」を教科書にしたい。
- ワークショップ内で、テーマを決めたのちそれぞれ目標を目指して話し合いを進めていくことの取組を行ったという点は、今後ワークショップがあれば、進行の際の参考にしたいです。
- 地域の方で当初は、何に向かって進めるべきか参加していた方がなっていたが、回数を重ねていくうちに最終的にファシリテーターの役割を務めることができるレベルになったという事例を聞き、1人1人の役割やプロセスの大切さを学ぶことができました。
- 様々な団体との協働の仕組み作りについて、大変分かりやすく紹介していただき、勉強になりました。具体的なノウハウを惜しみなく共有していただけたことをありがたく思います。
- 課題について、それぞれの立場から、解決に向けて、考え話し合える環境づくりが重要だと思った。高知県では、流域別に団体はあるが、それらが会う場が必要だと思った。（今回のセミナーなど）
- 1度本を読んでみたい。
- 資金調達の裏ワザが参考になった。
- 水平ネットワークの構築。
- 山村育成の中で市民団体からメニュー出し、それを有効活用は良い。
- 生物多様性リーダーが各団体を運営、ヘルプまで。
- 市民団体から行政も動かせることがよくわかった。高知ももっとがんばらねば。
- 行政を動かすことの難しさ、議論することの大切さ、教育の人達をしっかりと動かすこと。
- タウンミーティングを作っていく熱量がすごい。高知県民が熱量をもって続けられるか・・・。
- 学びなおしたい。非常に勉強になりました。
- 小さな火種が炎になるよう切磋琢磨しながら輪を広げようと思います。（自分の動きに対して）自信をいただきました。
- 個々の課題にマッチするパターン・ランゲージの有効性。
- 地域に寄り添いながら大事。
- ワークショップを続ける事で市民のスキルUPにつながった。
- 協働のプロセスを詳しく説明いただいたので、参加者の意識の変化がよく分かった。

7 ポスター出展者へのメッセージ等

7 ポスター展について（ポスター出展者）	
ポスター番号・団体名	メッセージ
全団体	<p>日頃高知県の自然を守るために活動して下さっている皆様に心より感謝申し上げます。</p> <p>高知県の自然環境のすばらしさに惹かれて4年前に移住してきて以来、高知県の自然環境やそれに関わる産業（林業、農業、建設土木、再エネ、廃棄物処理など）に関して調査をしてきました。それとは別で小さな環境教育団体をやっています。生物多様性こうち戦略に明記してある様に、高知の生物多様性は危機的状況にあり、小さな活動のみならず、産業の在り方を変えていく必要があると痛感しています。これまでの時代は「稼ぐためには、環境に負担をかけても仕方がない」が常識だったと思いますが、時代は反転し、今はネイチャーポジティブ（自然再興）つまりは、「自然への負荷を減らすのではなく、回復させること」が稼げる方向へ世界中が動いています。この時代の変化は高知県にとって、大チャンスだと思っています。高知県には国が定める【ネイチャーポジティブ経済移行戦略】に準ずる戦略がありません。基調講演でお話があった、徳島の事例のように、策定に向けた提案を共同で行いたいです。私には組織運営能力や資金力はありませんが、ご関心ある方は、ご連絡頂けると幸いです。</p>
32・物部川清流保全推進協議会	事例がいくつか掲載されており、分かりやすかったです。遡上調査等の取組を行っているので、勉強になりました。
36・広見川等農業排水対策協議会	川の濁水対策で、「俺のカルシウム」を取り入れて対策されており、初めてこの商品があることを知りました。また、散布後の効果もわかりやすく写真があり、大変おどろきました。
38・株式会社相愛	企業による川づくりの取り組みが紹介されていたため。
36・広見川等農業排水対策協議会	自分達の流域でも活用してみたい。
9・金谷光人	リッパー堀削：何をしたのか気になる
21・高知県土木部須崎土木事務所	新庄川の取り組み（漁道）
37・特定非営利活動法人川塾	川遊びから川づくりへ

8 全体を通して、ご意見やご感想があればお聞かせください。

【自由記述】

- この度は、このような機会をご準備いただき、関係者の皆さんに心から感謝します。活動団体がつながることはとても大切で、高知県でこうした取り組みが開かれたことは本当に意義深いと思います。ただ、みなさんが目指す本当の環境の再生は全県民が関心を持ってこそ進められるものと思いますので、今後は、さまざまな分野の方にもぜひ参加していただきたいです。東京都や京都の高級料理店のシェフたちが立ち上げた「Chefs for the Blue」は、海産物を守るために勉強会を開き、提言書を提出しています。シェフを通して、多くの分野の人たちに情報が伝わっていきます。私は、高知から「Chefs for the Green」が立ち上がり、Blueと恋人となり一緒に力を合わせたら、未来はきっと変わるのではと思っています。そんな事を高知のシェフ数人に話したことはあるのですが、なかなか自分事としては捉えて頂くことはできませんでした。このフォーラムに料理人が参加して、他の団体の活動を知ることで、「自分も何かやりたい！」という気持ちが広がるのではないのでしょうか。
- 大変意義ある試みだと思いました。私は都合で明日は参加できませんが、盛会をお祈り申し上げます。今回は呼んでいただき、誠にありがとうございました。
- 講義1,2のボリュームと時間が合ってなかったと思います。講話が早口すぎてわからない箇所が多かった。
- 四万十川流域においても、森と川を考えるフォーラムを開催してほしい。
- 様々な取り組み事例を知れ、今後の参考になりました。ありがとうございました。
- 交流を意識して、とにかく活動したいと思った。森づくり川づくりもオーガニックでありたい。
- 今回、自分達が普段取り組んでいる川の活動についてポスターを作成を行ったことで自分達の取組を改めて再確認する機会になりました。また、県内・外で活動している団体の活動をポスターを通して知ることができ、今後の取組で取り入れることができるものがあり、学びのある1日となりました。ありがとうございました。
- もっと軽い内容で行政職員向けのセミナーも検討してほしい。(県全域における課題もあり、それを知らない、他人事なこともあると思うため。)
- 非常に内容がおもしろく充実した時間であった。一方で、とても市民に対する内容であると感じた。
- 今回のフォーラムを継続していただき、つながりを増やしていただきたい。特に仁淀川流域への連携等が進むようにしていただきたい。
- 新しい取組に着手されたことに敬意を表します。ぜひ続けていかれることを期待しています。
- 参加するためのハードルも低く、カジュアルに有意義な話が聞けて良いイベントだった。
- とても専門的で「どなたでも・・・」と言うにはハードルが高いと感じた。この企画は実践しているNPO等の活動と理論が結び合い力が生まれる場と思う。
- 多様な立場で動いている人たちの最前線の話と組織のつくり方マネジメントなど具体的な話が聞けて勉強になりました。
- 貴重なお話を聞けて学びが多く感謝です。